

## 平成 30 年度第 3 回山鹿市子ども子育て会議 議事録

- 1 開催日時 平成 31 年 2 月 25 日（月） 15：00～
- 2 開催場所 市役所 4 階 402 会議室
- 3 出席者  
【委員出席者 11 名】  
伊藤会長、阿蘇品委員、相原委員、木村委員、藤森委員、星子委員、松見委員、廣瀬委員、菊川委員、渡辺委員、宇野木委員  
【事務局 7 名】  
大森部長、村上課長、山下審議員、原課長補佐、古川係長、清田専門員、永田主任主事、野見山主任保育士
- 4 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 「山鹿市子ども憲章」唱和
  - (3) 市長あいさつ
  - (4) 会長あいさつ
  - (5) 議事
    - ①子ども・子育て支援事業計画
      - 主要施策等の検討について
      - アンケートについて
    - ②その他
  - (6) 閉会

～議事～

### 【会長】

第三回ということで委員の皆様にお諮りしていきたいと思います。まず、最初が子ども子育て支援事業計画ということで主要施策等の検討について、アンケートということであげてございます。

それでは、事務局の方から、順次説明をお願いいたしたいと思います。

### 【事務局】

皆様こんにちは。主要施策の説明について資料 1－1 を見ていただきたいと思います。

子ども子育て支援事業計画は、基本理念をもとに、基本目標というところを設定して、主要施策1～6というところで考え、それに基づいた事業を展開していております。資料1-2の方は、事業に対する評価について資料として添付をさせていただいております。まず、基本理念についてです。これまでの山鹿市次世代支援行動計画に掲げてある、「子どもの育ちは山鹿の希望子どもに夢を子育てに温もりを」という理念を基本として、子ども子育て支援事業計画においても継承してまいりました。この五年間、この流れは大きく変わることもなく理念の趣旨を規範的な考え方として位置づけながら現在の実情それからニーズなどを基に今後見守るとともに変更を続けていきたいと考えております。次の二ページの方からいただくと施策の部分で見ていきますと赤字の方で記載をしております。これらの赤字の方は、先程申し上げました資料1-2の各項目の取り組み資料の一覧の評価の部分でCとなっている内容を中心に、今後の取り組みとして見直しや変更を考えているところです。いくつか見ていきたいと思いますが、主要施策1、子育て家庭への支援の充実を図りますというところで、一発目の項目です。これはですね、子育て支援事業の質の向上、量の確保などが掲げてあります。この部分は、今年度は、小規模保育所それから家庭的保育室の開設に至り、量の方としては少くクリアできた部分もあるのかなと思えますけれども、人材確保という点ではかなり難しくこれからも検討していく必要があると思えます。それから認定こども園の方ですが次年度平成31年4月からスタートをしていきます。これから行いますニーズ調査を含めて考えていこうと思っております。下の方に行きますとこの幼児児童の体質に合わせて食事への配慮等自園調理を原則としと謳ってあります。施設の問題等で自園調理が現状できていない施設等もありますが、その所にはその子の食物アレルギー対策等食育の部分と合わせて食育という部分で文言とか見直しの検討を行えたらと思っております。主要施策2の親子の健やかな成長を応援しますというところで、一つ目に妊娠から出産、子育てそれぞれのステージに応じてというところで、保護者が子育てを楽しいと思える環境を整備します。とありますが、この表現の仕方として、抽象的であり具体的な記述の仕方の検討が必要かなと思えます。資料1-2の方で見ていきますと主要施策2の文言が、4ページの内容としまして書いてあることと、事業として母子保健推進員活動、それから肝いりどん事業となっておりますが、この辺で事業の変更をしていくことがあるのかなと思っております。それから救急夜間小児医療の対応できる体制を広めますというところで、山鹿市としましてはなかなかですね、常駐の小児科医師を置くということは難しいみたいで、これについても体制づくりというところでしっかり見直しをしていこうと考えています。主要施策の3、11ページに、基礎的な学力養成を図り子どもの「生きる力」を醸成しますということで、内容を検討していきたいと思えます。それから図書館、図書室移動図書、街角ライブラリー等による図書環境の充実を図ります。資料の15ページ、違いがある部分は赤字で書かせていただきました。文言なりの変更をしていきたいと思えます。主要施策の4番です。子育てと仕事の両立支援を推進します。というところでいくつか赤字にしています。企業との連携とか職場環境、そこら辺を赤字にさせていただいておりますが、企業向けセミナーの開催など、開催に至らなかった部分も多かったと思えます。現在、事業所内保育施設を再開した事業所もございまして、そういうところを基準として気づいた部分もありますので、そういったところも現場の見直しを上げさせていただきました。それから放課後児童クラブのガイドラインを設けてい

るところで、放課後児童クラブの方が、今後、民間委託とか、それから6年生までの受け入れ等、今後、変わってくる部分もあると思いますので放課後児童クラブについての見直しの検討もしていきたいと思っています。主要施策の5です。特別支援を要するこどもの増加が予想されることからということで、資料2で言いますと18ページになっております。これまで、インクルーシブ教育のシステムを構築というところでスキルアップを図ってまいりました。この五年間の中で、いろいろな取り組みがされてきて、今後どう充実させていくかというところを検討していくところがあるかなと思っています。主要施策の6番です。子どもや子育てにやさしい環境を整備というところで朱書きで「地域子育て見守り隊」のところで現時点でなかなか活動は実際実働していないなどございます。地域というところで地域子育て支援というところで何か検討していくのかなと思っています。子育て家庭が安心して生活できる住宅の維持、管理への取り組みというところで資料1-2の方では三世代同居住宅支援事業という風になっておりますが、住宅等の整備というところで、検討ができればと思っています。その他の施策につきましてもまだ見直しする必要があるかと思えますけれども皆様方のご意見を仰ぎたいと思っています。

### 【会長】

この資料の1-2の細かい説明は、この後ということでもいいですか。これまで御覧いただいたものに一部加筆修正しているということでしょうか、基本理念は説明があったとおり1-1のところ大きなスローガンがありまして、そして基本目標が三つですね基本目標1が「子どもに夢を」に対応するもの、そして基本目標2と3が「子育てに温もりを」に、対応するものという風に分けられて、そのあとこの基本目標三つを実現するために主要施策が1から6まであり、施策の数は特に決まっているものではありませんが、単純に数を数えれば主要施策1が9つ、主要施策3が11あり、このあたりに力をいれているなということが読み取れますが、数の濃淡はあれ、1~6までバランスよくということやってきたかと思えます。五年間の最終年度になりまして、これまで進められてきたところもあるし、まだまだのところもあるので、まあそうしたのを意識しながら赤字の部分を今回、書き入れていくという部分かと思えます。それでこの後、細かい施策の内容とかのご紹介もありますし、アンケート調査の確認とかもあります。次年度にかけて半ば以降にこの基本理念から始まりまして基本的な目標、主要施策の見直していくということになりまして、大きな変更があるかどうか分かりませんが、基本的なラインが同じであるとしても改めて今年度中にこのような方向と施策の概要でいいだろうか、今後こういう風に進めていきたいというような、行政のアイディアが盛り込まれているのではないかと私には読み取れましたけどいかがでしょうか。まあ赤いところが中心になるかと思えますが、どこからでも構いませんのでご意見やご質問などお伺いしたいと思いますが、基本的なところで資料1-1というところでお伺いしてみたいと思いますが、どうでしょうか。この前、宿題が出たのを覚えていますか。ちょっと考えてきました。質問でも意見でもどうぞおしゃってください。

### 【委員】

子ども子育てということで、自分は、高校生なので、うちの学校に3年生で、子どもと

触れ合う行事がありますが、子育てで、自分たちも、子どもたちのように育ってきたのもあるし、その育ってきた環境で自分を自然や教育、山鹿市子ども憲章でもある「郷土の自然や文化に触れさせ」という、ボランティアとかも感じて山鹿市をもっと知っていければいいかなと思います。

### 【会長】

はい分かりました。これから2期の計画を作っていきますのでいろんなこういうものがあつたらとか、ここらへんが足りないのではないかと、いろんな発言をしてもらったらいと思いますけど、「郷土の自然や文化のふれあいとか、ふるさとを愛する心」を例としてあげましたけれどね、そういう授業とか体験とかあつたのですか。

### 【委員】

はい。

### 【会長】

そういうものをもっと充実してほしいという風に聞き取れましたけど、はい他に如何でしょうか。今日のところは前期の計画の中での位置づけということですので、ここが足りないとか、もっとしっかり書いた方がいいのではないかと、あろうかと思えますけれど、私の方から二つほど言っていていいですか。今日のところは、これでよからうというところですが、4ページのところの基本施策の3番目と4番目ですが、母親、父親というワードが使われていて父親の育児参加、参画というのをね、その前にワークライフバランスが大事だ、働き方改革があつて意識の変革があつてという並びで書いてあるけれども、例えば、4番目で言うと父親の育児参加という表現が見てとれるんですが、育児参加じゃないでしょうと、二人親家庭といつても男性同志という家庭もあるから、男女という言い方はなかなか難しくなってきましたけども、父親の育児参加という表現でいいのかどうか、むしろ当然の責務でないのかという意見もあると思うので、今回こういう表現をされていますけれども、次回は少し考えてみる事が必要かもしれませんね。保護者という言い方だけでいけるとしたらそちらがいいかもしれないし、父親、母親という表現も含めて考えてはどうかという気がしたというのが一つ目で、二つ目ですが5ページのところの先程、インクルージョンというワードが出ましたけども、これはあの教育委員会あたりとのからみもあると思いますが、特別支援教育という表現できていてインクルージョンっていうワードそのものが、大儀的なので使いにくいってことがあつたのかもしれませんが、もっと積極的にインクルーシブ保育、教育という、そういう包摂した教育、保育体系の中での子育てというものを謳ってはどうか、特別支援教育というワードではいけないということではないんですけれども、インクルージョン、インクルーシブというワードが広がりを持ってきていて、それならではの主張もありますので、あえて使わないのはどうかという風に思います。というのが二つ目です。ワードそのものより、中味が大事だという意見もありますが、言葉の使い方をあらためて考えていくことができればなあという表現ですね。そういったことを考えれば発達障害、障害児という言い方もあるしひとり親家庭という表現もありますので、いろんな事を検討した結果こういうワードを当面使うという

風に事務局の方で、検討されていてはどうかと思いますけども、そういうところで、二人ほど口火を切りましたけど他にまあそういうご要望なりも含めて何かございますか。

### 【事務局】

皆様方に、今回見ていただく、資料1-2の内容につきまして全て庁内各課の取り組み状況という記載されているような状況になります。というのが、基本理念、基本目標のところにありますように、地域という言葉が非常に多く出てくるのがこの計画の内容の部分で実際には、この事業内容の中に地域という部分が入ってきていいのかなということで、今回、皆様方各団体の取り組みをされている。市が取り組んでいる事業以外で子育て支援に関わる事業等で加えていただけるような事業がありましたら、それを盛り込んだ形でこの2期計画の中に、入れていただけたらなと考えておりますので、よろしければここに載っているような事業でない部分で各団体やそういった取り組みをされている内容がありましたら出していただければと思います。

### 【会長】

はい分かりました。次の1-2の施策を紹介してもらった後の方が具体的に出るかもしれませんが。その、時々、社会的な話題とか関心の高まりもありますので、そういうものもきちんと取り込みながら、例えば近年で言うと児童虐待等、児童相談所の在り方とか児童福祉司の廃止のこととか、今後先5年間を見据えながら、当面大きな問題となっていてそれがなかなか解決できないけれども、少なくとも5年間の中でこういうところまで行きたいといったような見通しを持って、そういう意味で私たちの役割としてはいろんな角度から少し先を見すえたところでの展望も含めて提案型の企画を作るといいですかね、そういうところであろうかと思いますがそれじゃあと一区切りここで切りまして1-2をご紹介していただいた後、又元に戻りますので次の1-2のところのポイントだけご紹介してもらっていいですか。

### 【事務局】

先程、主要施策1から6まで説明した中味の中で何点かは、1-2を使って、事業の内容等との対比とか、文言の違い等をご説明したかと思えます。こちらを見ていただくと、主要施策の部分での内容に◇印の項目が入ってきているのがこの資料になります。この内容で今日は、事業名というのが各課で取り組んでいる事業だとそういったところをございまして、この内容の事業概要があって各年毎の目標数値、この資料の場合は、平成30年度分の目標値が入っている状態で資料としては皆さん方の方にご提示していただいていると思います。先程ですね赤字でありました部分での主要施策の1の一番上の部分が4月以降の詳細な報告の内容がきていてということで資料を見ていただければ分かるかと思えます。一番上の部分の目標値の部分で人数に対しまして、保育士の確保がどうだったかということで、この課題に対しましては保育士に関しましてはこの取り組みがどうなったかということで、確保が難しかったのでB判定という判定が出ている。先程、赤字説明した内容で、基本的評価がCからBについて、今回見直しを立てていただく項目としてあげさせていただいていることになります。只それで以外にも、事業が廃止、課毎で取り組み

を行っていますので、取り組みが出来なくなった事業又これ以外にも、事業等取り組んでいただいていますので、そういった部分の事業の洗い出しをしたうえで内容を作っていく必要があります。先程申しましたようにこの項目につきましては、基本的には庁内、各課の取り組みだけの記載の状況になります。当然各課から各団体をお願いをして事業展開をやっている事業もあるんですが、ここに載っていない事業展開をしている団体等もございまして、そういった部分を含めて評価することによって地域の力を使った子育て支援というところ、各委員さんの方から出していただいて、この計画に盛り込んでいければという風に考えているところでございます。文言を一つ一つとなりますと皆さんの負担になりますので、赤字の部分で説明した内容以外の部分、関係する部分で、ご提案でございました場合は、合わせてあげていただければと考えておるところでございます。基本的には、主要施策1、主要施策3が非常重点的に取り組んでいく部分にはなるんですが、それ以外の部分で先程指摘のあった、両立の部分で事業展開されていると思いますのでそういった部分を、地域を含めて子育て支援を行っていくという部分では、そういった取り組みを入れていければと考えています。

### 【会長】

この評価ABCですけれども、何か通知表を示されている感じでCがどこかなと思ってついつい見てしまいますけれども。こういうABC評価、活動実績を中心に評価していると、ここに含まれてないものもたくさんあるかと思いますが、ということで、情報提供をとのこのようですけど、ご関係のところから、ここらへんが足りないとかいろいろあると思いますが。

### 【事務局】

このABCの評価というのは、取り組みのグラフ化を目標値に対する実績の部分で75%以下がC評価で85%以下が、B評価それ以上が、A評価という形で評価をしていただいている、基本的にはできているところですけど、それでも75%っていないところはC評価としているところです。

### 【会長】

中味について如何でしょうか。

### 【委員】

今のおはなしの関連ですけれども地域というところからの捉え方ですが、実はあの高校生が見えられているんですけど、奨学金というものが、何ら反映がなされてない、十分な子育ての要因かと思うんですけど。行政はもちろんやられてないかな。お世話はされるでしょう。只山鹿で、民間で、私の記憶で45年間高校生に対して何かそういう部分もここに反映できるような項目かなと思います。医療費は18歳未満の高校生までは無料化は、文言として出てきておりますので、そういう学資的な援助も十分な子育てをしていく資金という観点から見ればと思っております。もし必要でありますと地域のお尋ねはあると思います。一カ所だけ長い歴史でやっております、山鹿ローターリークラブだったかな、今

年であれば4校の子どもさん達に3名月の1.5万円やっています。多いか少ないかは別として、それがずうっと歴史がある制度ですので、今後も続いていくと思いますので、そこあたり十分な反映をできたら非常に重みが出てくるかなと思ってちょっと気付いたところでは。

### 【会長】

どうもありがとうございます。じゃあ順番で。

### 【事務局】

今のご意見ローターリーさんの部分以外にも山鹿市も個人の方の寄付をいただきまして数千万以上の基金を積み上げて、そういった、奨学金運営制度を、運営をしております。一方で例えば看護師さんになりたい医者になりたい将来山鹿に帰ってこられる方につきましては渡し切りの就学援助をしておりますし、その他義務教育についても就学援助をしています。そういった部分を総括してご紹介させていただきます。

### 【委員】

療育相談員としては、19ページの夜間巡回活動についてなんですけど、今、子ども達がゲームセンターにたむろしている姿がほぼほぼ無くって、これは必要だろうかといつも思いながら、あの私も参加させてもらっているんですけど、よりも、皆ボイスチャットで遅くまでゲームしているとかですよ、高校生、なのでうろつくというよりも夜遅くまでITを使ってパソコンとか使って遊んでいる姿の方が多いのかなと思うので巡回ですね。地域のおじさま方が運転してくださって活動したりするんですけど。すごくありがたいけどそれよりも、夕方の小学校1、2年の子ども達が帰るところの下校指導とかの方がまだこう地域で遊んでいる方は、私が一年間活動した時には、一人もいませんでした。必要なのかなって、えーってなっているけどもと思ったところです。

### 【会長】

どうですか。

### 【事務局】

今のご意見、おっしゃる通りで指導員さんからもそういったご意見もあるので鹿北地域で、遊ぶところもなかし、地域毎、時期毎に、冬場は、子どもたちは出歩きませんので、お祭りがあつた時とかそういった時に重点的に回るように又、以前は個人の車をお借りしていたのを青いパトランプのついたパトロールカーをこういった時に使おうかと、そういったことを来年度予定しております。

### 【委員】

この間、菊鹿町では誘拐というか、学校帰りにさらわれようとした子どもがいました。ここに書いてある幼児期からの交通安全の意識とそれから、街灯設置とか、数年前に子ども達の通学路が決められましたので、ずいぶん変わりつつ人も変わり子どもも変わり時代

も変わりずいぶん流れが変わってきました。部活動もなくなり一人で山の中を帰らなくてはいけない子も出てくるのではないかなと、そのあたりを考えてくださるといいかなと思います。もう一つは学童保育の中で以前は、指導員とっておりましたけれど何かあの学童支援員という風に変わりつつありますので、その点を宜しくお願いしたいと思います。

### 【会長】

続けてどうでしょう。

### 【委員】

4月から、認定こども園になり、業務とか違ってくる。連携の仕方とか違ってくると思うんですけども。私どうしても先生の確保というか、そういうところが大変にはなってきます。只先生を集めたからといっても人件費がかかってしまう分子供が少ない。そういうところで、変に経営が悪化してしまうところを、今日うちの税理士さんの監査があったんでそこで来年の予算みたいな形をちょっと計算して、今のままではちょっと厳しくなりそうですねと言われてたりすると、先生を増やせばいいだけの話ではないんだなあというか、子ども達を集められる環境整備とかですね、そういうところもまた必要になってくるんだなというのを、ただ、子ども達はですね教育していく部分でちゃんとやっていかないといけないとは思っているんでそこは力を入れてやっていきたいと思っておりますけども。何かそういう所で何か制度、バランス的な物が難しいなというのをあらためて実感しております。

### 【委員】

全体的に見て、市としてもとても素晴らしいことをされているところが多くて、本当感謝しているところではあるんですけど、広報的な部分で、こういうことをやっていますよとか、こういった事業をしていますよというところに関して、そこまで市民の皆さんに浸透していない部分が多いのかなあといったところがあります。先程、保育士の確保についての話も、一番、最初に出していただいてとても感謝しているところでもありますが、福岡から180万円ぽんと、話しが出たかと思うんですけど、大体、熊本県ではそういった事業の方は5年勤めたら無償になりますよとか、そういった制度をやっている。そして、広報の方は確かに、広報やまがであるとか周知の方はしているのかなと思うんですけども、ただそこだけでいいのかという部分があって学校単位でそういう将来を目指す子ども達に奨学金がありますとかの周知であるとか、そういった部分ですよ。こういった事をされていますよという周知を是非、ピンポイントでつながるようなやりかたをしていただけたらなと思います。あと先程、委員の意見についての捕捉になるんですけども、巡回見回り等で、今度3月20日に見直し検討といったところで会議の方も、先日、推進員で集まった時にそういった話がでてから、市の方からもニーズに合っていないじゃないかという話があって、そういった検討会をして、今後事前にあたってくれという形で進んでいまして来月会議の方で集まるようになっていきます。皆さんも、今元々やってきたことと、今がっているかという所もあるかなと思いますので、そういった所は、適宜対応がなされていて、私たちも、それはいろいろ見直していく機会が必要ではないかと思っております。



## 【会長】

他はありますか

## 【委員】

先程、社協の方から事業もということでご紹介させていただきますと社協の方では、福祉協力員を設置しております。282名をいらっしやいます。その方たちの研修の中で、今どうしても、高齢者にスポットが当たりすぎているところがあるのですが、子どもさんたちの地域での見守りをお願いしますというような研修会もさせていただいたりしております。それと子どもさん達に対する福祉教育として、地域の方たちに社協で漫画を作りまして、地域で見守りというのが、これだけ大事ですなど、子どもさん達にも見やすいような形で漫画にしております、この漫画を学校など、福祉協力員さん、区長さん、そういった方々にお配りしております。地域でのいろんな形での見守りというのが今大事ですよという所を訴えさせていただいているというのが一つの取り組みで、社協の役割というのがそういうことになります。それとうちの方で温か地域活動助成金といたしまして各地区で色んな世代間交流とか子どもさん達にスポットをあてたりとか、各地区におまかせしているのですが、その地区でされる行事に対する、助成をさせていただいたり、あと子どもさんの教育として、子どもボランティアリーダー養成講座というのをしております。それは小学校5年生の希望者を対象に年間7回、月1回ぐらいのペースで講座をします。福祉に関することを、教育をして将来の山鹿市を担っていただく子どもさん達に対して少しでも福祉の視点を持ってもらう人を増やしていきたいという所を目的にさせていただいて、ちなみに今年度は40名受講いただきまして、5年生が終わって最上級生になる6年生が各学校で活躍をしてもらいたいなという思いです。5年生で終わりますが6年生になったら今度は、山鹿もてなし隊というNPO法人を立ち上げた団体があるのですが山鹿市のふるさとを紹介するための観光ボランティア養成をされてありまして、その子ども版を昨年度から始めましたので我々が養成した子どもさん達をそっちにバトンパスをするという事業をさせていただいております。それと皆さん聞いたことがあると思いますけど、ワークキャンプという高齢者の施設、もう一つは保育園を一つ利用させていただいて、中学生、高校生の希望者に夏休みの期間を利用して一泊もしくは日帰りの体験をしてもらっています。それと高校生の為の保育ボランティア講座というのを1日の講座という形でさせていただいております。今年度は、うまく先生方との連携をとることが出来なくて周知がうまくいかなかったのが希望者が1名しかなかったのですが、昨年度は32名の受講があったので、これについては同じような施策としてみてもらっていいのかなと思います。ボランティア活動推進助成事業という助成事業なのですが、学校などにボランティア団体さんに対する助成をしております。その中の活動に読み書きかせとか食育とかに使われるような団体さんとかもありますので、こういったのもうまく利用させていただいていると考えています。先程、高校との連携がとれましたけど年度頭に小学校、中学校、高校もボランティア担当の先生と社協職員の連絡会議をさせていただいております。その内容というのは、今後、福祉教育をしていただく先生方に負担がかからないようにという意味の周知、それと先ほどお金の話があったのですが、社協の方でも生活福祉金という制度があります。高校、大学の進学時に必要な準備資金などそういったものを、あくまでもうちは貸

付なのですけど、低所得世帯とかそういったところに対する貸付事業というのもやっております、それと防災の集いとか、そういった災害に特化したものなのですけれども、1月17日に防災の集いをしております。一昨年ぐらいからですね山鹿関連の高校に呼びかけをさせていただきまして、高校の授業の一環としてそれを取り組んでいただけるようになりました。災害が起こった時に支援される側にもなるし支援する側にもなりますよという一貫した教育的なものをさせて頂いております。今年度140名の高校生が防災の集いのほうに参加して頂きました。そういったことを地域で行っております。ふれあい参画事業にも学校の授業をとられて、高齢者との交流という形で利用していただいたり、あとタンポポクラブと言いましてファミリーサポートセンターがいつも評価Cなのですごく納得がいかないところがあるのですが。タンポポクラブというのはファミサポとは全く逆で、ファミサポは基本的に自分の自宅で預かるという形なのですが、社協の方で行っているタンポポクラブは、逆にご自宅に訪問して、お母さんの子育ての悩みなどを聞きながら調理を一緒にという事をしておりますが、この事業は、今年度需要がありまして2名くらい利用がありました。こういう事業をさせて頂いております。あとは地域で、現在1か所だけなのですが子育てサロンを立ち上げさせて頂きました。子育てサロン自体は、現在ボランティアさんの方で運営していただいている形になります。人数で言いますと今年度93名の方がボランティアとして活動いただいています。あと一人親家庭に対する支援事業として入学、卒業祝い義務教育の入学それから義務教育の卒業に対して、図書カードを贈呈させていただいているという事業をさせて頂いております。これは各管内の保育園、幼稚園さんそれから中学校の方に協力いただいて、個人情報がありますのでうちの方には情報がありませんので、協力をいただいて行っています。一日親と子のつどいとして、これも一人親家庭を対象とした一日旅行を低料金で行けるように企画させて頂いております。今年度は佐賀県にあります宇宙科学館に行きまして99名の参加がありました。それともう一つチャイルドシートの無料貸し出しというのもしております。これは帰省される方とかが短期間になりますので、そういった時に、わざわざ買うのは大変だからということで、うちの方にシートを借りに来られたりします。チャイルドシート、ジュニアシート合計しますと大体110件くらいの利用がありました。あとは委託事業の一人親家庭等、日常生活支援事業と言いまして専門のヘルパーさんが行ってそういった事業をするというような事業をさせて頂いております。すみません、たくさんありまして、どこの枠に何が入るのか分かりませんが、先ほどの地域のテーマがあるという事をおっしゃっていただきましたので、社協の方でやらせていただいておりますので、もしこれに載せて頂けるのであれば、こういう事業があります所をお知らせして頂けたらありがたいかと、周知の話もあつたんですけど多分周知は市役所さんだけでなく、うちの社協のほうとしても周知に関してはとても課題が残るものとなっています。色んな工夫を重ねているものの、やっぱり今現在よく知ってらっしゃる方は、自分が一番身近に感じた時にしっかり調べられてその時初めて利用されるという形のパターンの方が多いかなという風に思います。それを知っとけば良かったといわれる方たちに対して、どうやって周知をしていくのかというのは、今からこれからもずっと考えていこうと思っております。すみません長々と以上になります。

## 【委員】

私は母子保健推進委員なのですが、ここで評価はCになっています。私が受け持っている地域のことをちょっとお話します。少子化で子どもさんが少なく、妊産婦さんとそれから赤ちゃん訪問を月に1人ずつ2件あればいいかなというところもあります。お母さん方は、今携帯が多く、必ず顔を見てお話をしたいなあというところで、電話で予約をとるんですが、こちらの妊婦訪問指導の所にもありましたけれど、就労妊婦が多く適切な時期に訪問、保健指導ができていないという事を書いていますけど、それはこちらの方にも当てはまることで、もう、産み月のちょっと前だからもうお休みになっているだろうと思って電話を何回かけても通じなくて、向こうから着信履歴でかかってきます。「母子保健推進員です、今度お伺いしたいんですけど」という事を伝え訪問し、「玄関先でいいですよ」と言っても「上がってください」と言われます。お母さんたちは、よその地域からお嫁に来てらっしゃるわけです。そういうお母さん達は、働きに出てらっしゃるし、隣近所のお婆ちゃん達ともお知り合いでもないし、家庭の中だけですよね。そして、最近訪問して思うのは、若夫婦のお家は母屋の別棟でございます。だから、その時に「母屋のお父さん、お母さんと交流はうまくいっているの」とか、「子育ては助けてもらっている」とかをお話することも結構あります。社会事業というか、家の中で一緒に子育てじゃなくってもう、別棟で若夫婦だけで暮らしているので、とてもお話したいとか、お母さんたちは多いので、やっぱり地域でそう見守っているような気持ちをこちらにも伝えるようにしていますけれども、そういう見守り体制というのがちょっと電話すれば相談にのってくれるとか、そういうような所の周知徹底というのが大事だなあという風に思います。評価はCです。なるべく、会えるように会えるようにと努力は、皆、しているところです。それから、もう一つ私、栄養士でもありますので、離乳食教室を、子育て支援センターの方で年に2回ほど昨年度までやらせていただいていたんですけども、来るお母さんたちはいいんです。赤ちゃんをおんぶしてでもやっぱり学びたいと思われているお母さん方は、すごく知識もあるし積極的です。でも、来ることができないお母さんたち、こもっているお母さん達をどう引き出すかというのが大事だと思います。

### 【委員】

子育てをしているその保護者として何ですけども。そのお父さんとの子育ての意識の違いというのがやっぱり私も実際感じるところがあるので、お父さんだけでなくお母さんも一緒にお話を聞いて、子育てをもっと積極的になれるような、講座とまではいかないですけど、そのような場があるのだったら意見交換や子育ての悩みとかを気軽に、旦那さんに言えないとも言えるような場所があればもっと利用にもつながるのではないかと思います。

### 【委員】

10ページにあります、環境保全対策事業に対してです。評価がCになっていて、今年度も30名を目標として書いてありますが、平成29年度が19名で目標値の6割だったのでもう少し参加できるように、全中学校と全小学校に頼んで回って、全学年を対象にすれば、より多く参加できるようにしていけばいいと思います。

## 【会長】

はいありがとうございます。どうですか。

## 【委員】

1 番のあの先ほども出ましたけど、保育士の確保ということが毎年出ていて、とても一番重大なことかと思うのですが、2 回目の時も保護者の方は 0 歳から 2 歳までの間の方の要望が、途中の要望がかなりあるけど、先生方の数が足りなくて受け入れられない。つまり保護者の要望に対してその対応ができないというようなことをやっぱりおっしゃっていました。保育園の先生も非常にそこは心痛むところがあることと思います。今度の実態調査でも浮き彫りになってくるかと思いますが、3 歳から 5 歳までは無償化という形になった時に 0 歳から 2 歳の人を何故親は預けたいのか、経済的な理由なのか。それと昔と比べて是非産後休暇となっても昔はなかった時代もあって、豊かな社会になって健康面も早く回復するような形で、母親の方の回復というのも早く、早く職場に戻りたい、看護師さんであった人でも私は子どもを虐待しましたって、やっぱり自分の意志で動けないですね。子育て中は、子どものあるがままに扱って、対応していかなくてはいけなくて、なかなか自分でパッパッと、計画して仕事をしてきた人に対して、子育てというのは非常に忍耐もいるし、そういうところで虐待とかも出てくると思うのですが、ニーズが今の一般的にはあまり経済の回復はあまり感じられていませんけれども。その中でどうしても経済的理由で早く預けたいとなっているのか、せつかく育休があっても取れない状況としての会社とかの影響なのか、非常にこのところ、もうちょっと分析して本当にどう対応して保育士を確保して保護者のニーズにこたえてより良い環境づくりという事ができるかというところを、慎重に分析していかないといけないのではないかなという事を私は感じております。

## 【会長】

わかりました。一通り伺いして、たくさんのご意見とか取り組みの状況が示されたと思います。いくつか事務局の方から答えられるところがあればして下さい。どうでしょうか。

## 【事務局】

今ですね皆様方からご意見を頂いた中から、やはり情報発信というのは、山鹿市自体もうまくいってない部分がある中で、各生活安全あたりとか、母子保健推進員さんがされている事が周知をされてないというのが現状あって、確かにいい事業で、そういった活動もあるのですが、それが知られてなくて利用されていないというのが、やはり皆さん方のご意見いただいて感じたところで、そういった部分についてはですね市も同じような形で周知活動をやっていけば皆様にも届かないので、方法を変えていこうという部分では検討を進めていかないとなかなかこういった子育て支援というのは充実しているのですが使ってもらえない、その制度をよく利用していただけてないという部分は、事業の中にもありました。拠点事業の中の利用者支援事業に充てるとかそういった部分できちっと周知が図れるような形で、このまま当計画の中に整備し、周知活動もこの辺りを考えていかなくちゃいけないのかなあという風に考えているところでございます。色々ですねご意見頂い

たので全てが今回の計画の中に盛り込めるかどうかというのはわかりませんが、地域という部分では、意見をいただいた部分で何かその地域に力がないからとか子育てというのが今地域の皆さん方にとっては難しい問題になってきているというのが現状にあると考えています。そういった部分を改善するには地域の皆さん、地域の中で子育てをしていくというベースをしっかりと打ち出した上で市としても子育て支援を行いますので。これだけの取り組みを行っていきますという風にしっかりとした計画に持って行けたらと思いますので、皆様方から上げて頂いた貴重な意見を受け止めて反映させていきたいと思ひます。

### 【会長】

はいありがとうございます。地域の様々な特に民間の取り組みを盛り込んでいきたいという、色々情報提供があったと思ひます。ご意見もいただきましたのでそれを次回の計画に繋げることができればと思ひているところだと思ひます。まず今山鹿の子どもの育ちを、子育てがどういう状況にあるのかという事を、この後、アンケートの話題が出ますけど、その場の正しい判断ができるようにまず状況をしっかりとつかむという事が私たちに必要ではないかなという風に思ひます。

### 【委員】

一つの主要の施策がありますよね、文言が書いてあるのですが、その下に◇のマークでもってこう、一つ一つあるのですが、よければこれに沿った形でもっとランク付けをした方が読みやすいかなあと、只バラエティにとんでいいと思ひのですが読みやすさからすると少し上からこう点で行った方がみやすいと思ひのですが、その点、少し気になります。

### 【会長】

資料的な見やすさという所もありますし、こうしたこれまでの施策をどういう風に進めてきて、どう判断して進もうとしているのかという事を広く皆さんが分かるような形で示していくということです。はいそれでは次のアンケートにいきたくと思ひますがよろしいですか。それでは前回諮りましたが、アンケートという事で進めていきますので事務局の方からアンケートの説明をお願いします。

### 【事務局】

アンケートにつきまして皆様のお手元の方にピンク色と青っぽいやつを二種類渡してあります。基本的には前回の会議の中でご意見をいただいて内容の方を検討並びに修正をした部分で最終的に会長のほうに見ていただいて、できた内容となっています。今後の日程といたしましては明日、小学校の校長会がござひます。その中で学校を通じて6歳から9歳までの子どもたちについては、配布回収をお願いするという事で提案した後に3月4日に配布させていただいて18日回収の所で小学校を通じてアンケート調査の方については実施をしたいと考えています。また就学前につきましては3月12日に公私立園長会がござひますので、保育園に通う子どもたちについては、今シーズン保育園、幼稚園を通じてアンケートの配布回収をお願いしたいと思ひています。期間としましては、12日から25日という形で就学前の子どもについて実施させていただきます。対象としましては前回も説

明いたしました年代毎に 200 名の抽出を行って調査をしたいと考えております。各年齢 400 名前後の子どもさんたちがいらっしゃいますので、大体半数抽出ということで今回のアンケート調査を実施させていただく形です。アンケート調査につきましては前回もご協力いただきまして今回は配布という形でアンケート調査を終えたうえで 4 月、5 月でアンケート集計をさせていただいて、その結果を今度 6 月にこの会議を予定しています。その中で先ほどの上げて頂きました主要施策の事業内容等をきちんと反映できるような形で整理させていただきたいと思っております。またこれと別に 13 事業もこのアンケート調査をもとに量の見込みを算出し、会議の中でご意見をいただくこととしておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

### 【会長】

はいありがとうございました。内容については、これまでご検討していただいた部分を反映させて、アンケートを実施ということになります。

～閉会～